

第3回企画展

戦後50年資料展

～戦時下の暮らし～

開催期間 平成7年7月25日(火)～9月14日(木)

久喜市公文書館

開催にあたって

本年は、昭和6年(1931)の満州事変に始まり、日中戦争(日華事変、12年)、第2次世界大戦(14年)、太平洋戦争(16年)、そして終戦(20年8月15日)と、15年におよぶ戦争が終了して50年目を迎えるようとする年であります。

また、人口の60%以上を戦争を知らない世代が占めるようになり、戦争の記憶が次第に風化しつつあると言われていた中で、戦後50年を機会に改めて戦争を見つめようという気運が全国で高まっております。

そこで当公文書館では、市内に残されている戦争に関する資料の散逸を防ぐために、市民の皆さんに、資料の所在調査にご協力をお願いいたしましたところ、おかげさまで百人近くの方々からたくさんの情報をお寄せいただきました。

この展示では、この調査をもとに、市民の皆さんが、それぞれの世代・立場で戦争を体験し、さまざまな思いとともに残されてきた貴重な資料を展示し、ご覧いただいた皆さんが、戦争と平和についてご家族で語り合い、後世に伝える機会となればと存じます。

最後に、この展示を開催するにあたり、資料の調査並びに資料の提供をいただきました多くの市民の皆さんに、厚く御礼申し上げます。

平成7年7月

久喜市公文書館長

戦時下のできごと年表

西暦	年号	主なできごと
1931	昭和6	9. 18 満州事変
1932	7	3. 1 満州国建国宣言 5. 15 5・15事件
1933	8	3. 27 日本、国際連盟脱退 11. 13 救国埼玉青年挺身隊事件
1934	9	3. 1 満州国、帝政を実施
1935	10	3. 明治26年開校した私立明倫館が、20日の卒業式を最後に閉校 4. 1 青年学校令公布
1936	11	2. 26 2・26事件(～29 瀝起軍帰順) 8. 1 ベルリンオリンピック開催(前畑秀子ら金メダルを獲得) 9. 25 帝国在郷軍人会令公布(10, 11 施行)
1937	12	7. 7 日中戦争(日華事変) 10. 12 国民精神総動員中央連盟結成 11. 18 大本営令公布、11. 20 宮中に大本営設置 12. 13 日本軍、南京占領
1938	13	3. 1 綿糸配給統制規則公布、6. 29 には綿製品製造制限令 4. 1 国家総動員法公布(8. 1 施行) 4. 19 大蔵省国民貯蓄奨励局設置、国民貯蓄運動がはじまる 4. 26 満蒙開拓青少年義勇隊埼玉班237人が渡満 5. 1 ガソリン配給制の開始
1939	14	1. 25 警防団令公布(4. 1 消防組と防護団を統合、市町村に警防団を発足) 3. 9 兵役法(昭和2年4. 1 公布)改正(兵役期間延長) 7. 8 国民徴用令公布(7. 15 施行) 8. 8 興亜奉公日が定まり、9月から毎月1日に実施 9. 1 ドイツ軍ポーランドに侵入。第2次世界大戦開始 10. 18 価格等統制令・地代家賃統制令・賃金臨時措置令・電力調整令等公布 11. 6 米穀配給統制緊急措置令公布、米穀強制買上制が実施 久喜高等女学校で愛国子女団結成
1940	15	3. 30 汪兆銘、南京に中華民国政府樹立 9. 27 日独伊三国同盟調印 10. 12 大政翼賛会発会式挙行(12. 12 埼玉県支部結成) 11. 1 砂糖・マッチの切符制が全国に拡大 11. 2 大日本帝国国民服令公布(婦人標準服の制定は17年2月) 11. 10 紀元2600年奉祝行事が各地で開催(～14日まで)
1941	16	3. 1 国民学校令公布、小学校を国民学校と改称 4. 1 生活必需物資統制令公布(配給統制の全面化) 5. 久喜高等女学校で女子勤労奉仕隊結成 8. 30 金属類回収令公布
1942	17	12. 8 ハワイ真珠湾奇襲、太平洋戦争開始 1. 2 閣議、毎月8日を大詔奉戴日として決定、興亜奉公日廃止 2. 1 味噌醤油・衣料点数切符制配給実施 2. 2 愛国婦人会・国防婦人会などを統合し、大日本婦人会結成 2. 15 シンガポール占領 2. 21 食料管理法公布 4. 18 米軍機、東京など初空襲(県下で川口や八潮が空襲を受ける) 6. 5 ミッドウェー海戦
1943	18	2. 1 日本軍、ガダルカナル島撤退開始 6. 25 閣議、学徒戦時動員体制確立要綱決定 10. 21 学徒壮行大会、神宮外苑競技場にて挙行 12. 21 閣議、都市疎開実施要綱決定
1944	19	1. 18 中島飛行機大宮製作所など県下14工場が第1回軍需会社に指定 2. 25 閣議、決戦非常措置要綱決定(国民学校初等科を除き動員方針等決定) 3. 7 閣議、学徒勤労動員の通年実施決定(埼玉県は5. 1に開始) 3. 8 日本軍、インパール作戦開始 6. 15 米軍、サイパン島に上陸。7. 7 日本軍全滅 6. 19 マリアナ沖海戦(日本海軍、空母・航空機の大半を失う) 6. 30 閣議、大都市の学童疎開促進要綱決定 8. 4 閣議、国民総武装を決定 8. 19 東京都神田区から本県への学童疎開第一陣 10. 18 兵役法施行規則が改正、17歳以上を兵役に編入 10. 24 レイテ沖海戦(連合艦隊、事実上壊滅) 11. 24 マリアナ基地からB29、東京を初空襲
1945	20	3. 6 国民勤労動員令公布(3. 10 施行) 3. 9 東京大空襲 4. 1 米軍、沖縄本島上陸(6. 23 沖縄守備軍全滅) 8. 6 広島に原子爆弾、8. 9 長崎にも投下される 8. 8 ソ連、日本に宣戦布告 8. 14 熊谷市、B29の爆撃で死者234人・罹災戸数3,630戸 8. 15 戦争終結の詔書が放送(終戦)

前線の兵士と銃後の守り

昭和2年兵役法が公布され、満20歳に達した男子は、徴兵検査があった。昭和6年満州事変以降、検査で甲種合格者は選抜され現役兵として出征した。戦局が悪化してくると、補充兵も臨時の召集令状（赤紙）が交付され、さらに現役兵を満期除隊した人も再度臨時召集された。

出征時には、家族や親戚に見送られ、千人針を懐に、武運長久の寄せ書きをタスキにして、召集先に向かった。中国大陸や東南アジア・南方諸島へ派遣され、戦闘のあいまの楽しみは、慰問団の訪問であり、本土から送られる家族からの便り、慰問袋であった。

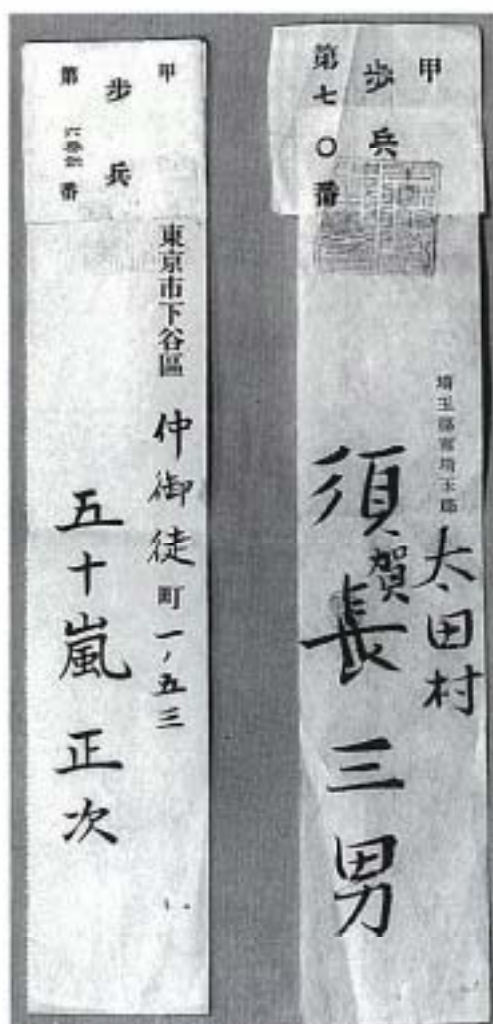
また本土で夫や父、兄弟を待つ家族は、12年からは国民精神総動員（国家総動員）のもと、「愛国国債購入運動」、「愛国貯蓄運動」、「金集中運動」等に参加し、15年からは大政翼賛運動となり、戦争遂行のため軍需工場への徴用、慰問袋の送付、留守宅の援護・勤労奉仕、愛国国債の消化、軍用機の献納、防空訓練・軍事訓練等に明け暮れていた。



1 軍隊手牒



2 召集令状（赤紙、複製）



4 くじ札



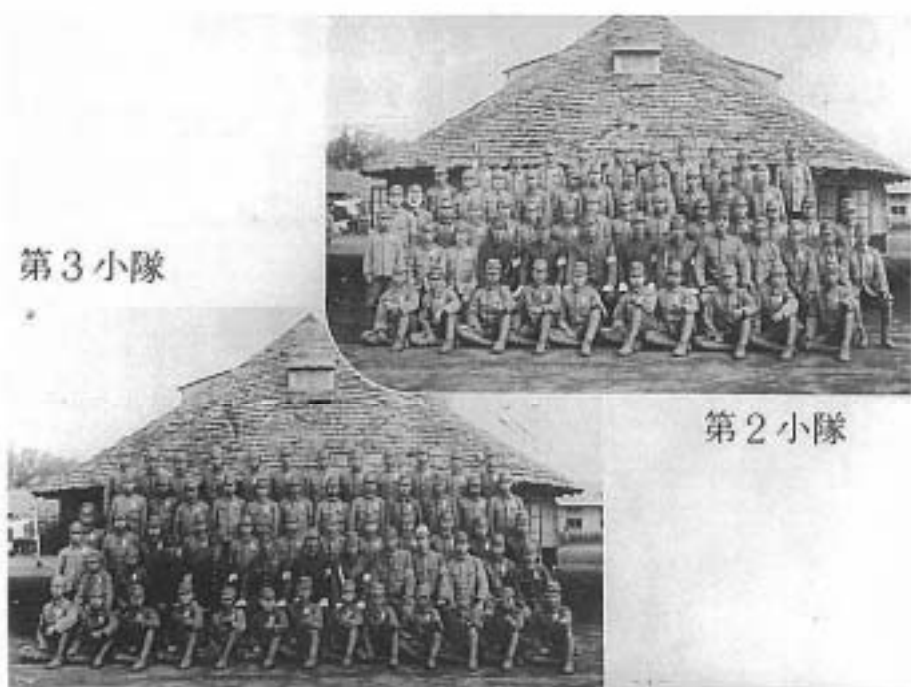
14 出征時の写真

満州移民・満蒙開拓青少年義勇軍

昭和6年(1931)の満州事変後、満州の植民地化を図り、農業移民政策を展開した。農業移民の目的は、農村の過剰人口対策とともに、昭和恐慌により疲弊した農村の救済を図ろうとするものであり、また対ソ戦準備と治安維持という軍事的意味もあった。昭和7年に在郷軍人を中心に初めて送り出し、11年から100万戸移住計画を策定し、国策として推進した。県内でも、8年の13名に始まり、11年までに27名が、また12年、13年に埼玉村開拓団、14年に中川村開拓団、15年に日野沢村、16年に児玉郡下の村々、17年に寄居近郷の村々を入植させ、18年までに727戸、2,389人が移住している。

また、政府は、農村の二、三男で、数え16歳から19歳までの小学校高等科卒業の者を対象に、満蒙開拓青少年義勇軍を創設した。埼玉県下でも13年から17年までに1,387人を送り出し、久喜市内からも何名か参加している。

これら開拓団・義勇軍は、20年8月のソ連軍侵入により、悲惨な運命をたどることになり、戦後50年を経る今でも、残留邦人の肉親捜しが続いている。



第3小隊

第2小隊

89 青少年義勇軍(小隊)



89 青少年義勇軍(分列行進)



89 青少年義勇軍(自家製パンを抱いて)



89 青少年義勇軍(雪中作業)

欲しがりません勝つまでは、贅沢は敵だ

日中戦争爆发後の昭和13年（1938）4月「国家総動員法」が公布され、国民の経済生活は、戦争遂行を至上目的とする戦時経済の中で、広範な統制をうけることになった。

経済統制は、インフレ、物価の騰貴を抑制するための「物価の統制」、最低限の生産物資を確保するための「配給制度」の実施、監視取締りの「経済警察」と強化された。

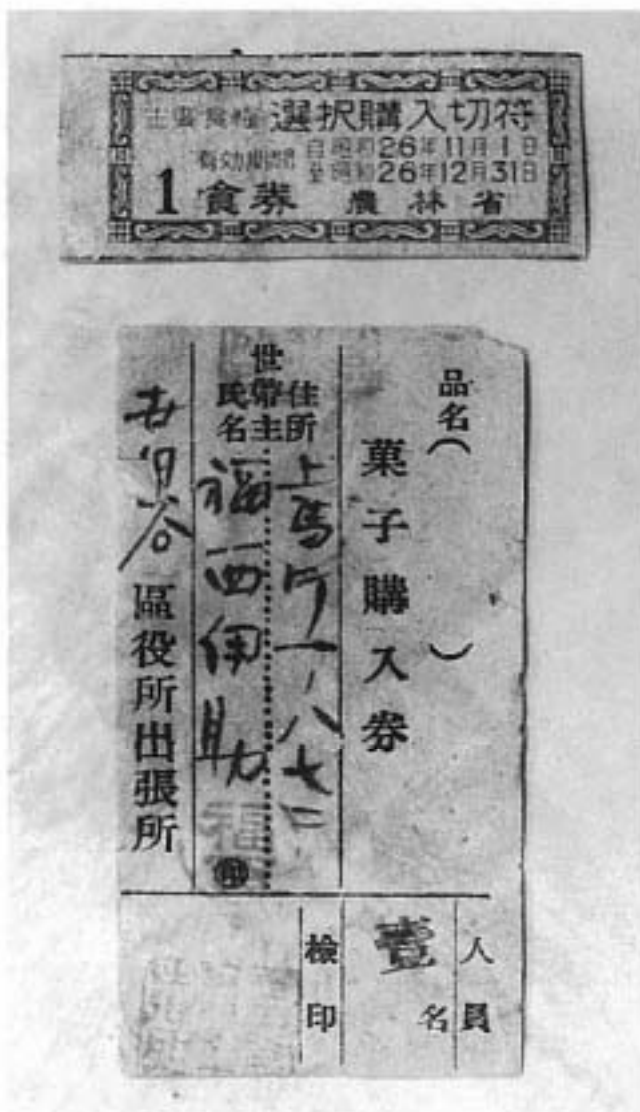
物価統制の手段として、価格、給料、賃金、家賃、地代等の引上げ停止や公定価格の設定、節約の奨励普及などが図られた。

配給制度は、まず食料の配給が挙げられる。日中戦争の徴兵等により、農村の労働力が減少し、さらに肥料の減産により、農家への肥料供給が激減し、農業生産力が低下した。また14年は、西日本から朝鮮半島にかけて大規模な干害が発生し、米穀は大減収となった。

このような中で、14年11月「米穀配給統制応急措置令」により、強制的に政府が米を買入れることにし、同年12月「米穀搗精制限令」により、白米の使用を禁止し、7分搗き以下に制限したり、麦や外地米の混入による節米対策もとられた。

16年4月から、東京・大阪など六大都市で、大人一人1日2合3勺（330g）の配給通帳制、外食券制が実施され、まもなく全国に拡大した。

また18年には、代用食の配給があり、さつまいも、じゃがいも、押し麦、大豆粕など、ついにはどんぐり粉まで配給されるようになり、農村への買い出しや庭や公園、河川敷、学校の校庭など利用できる空地はすべて耕され、中には屋根にまでかぼちゃをつくったりした。



91 外食券



90 一般用米穀類購入通帳



90 一般用米穀類購入通帳

生活物資の切符制・金属の回収

食料だけでなく、住民生活に必要な物資のほとんどが不足しはじめ、中でも衣料品が真っ先に不足し、太平洋戦争直後の17年2月には衣料切符制が導入された。

また繊維原料確保のため、ポロ布や古綿等の回収や、スフ・人絹等の混用、桑の皮や野生の苧麻等の繊維を混紡した作業服等が配給されるようになった。

15年には「贅沢は敵だ」のスローガンが流行すると、和服や高級衣料品は禁止され、男性用の「国民服」(同年11月国民服令)、女性用の「婦人標準服」(17年2月)が定められた。婦人標準服はあまり普及せず、かわりに「もんぺ」が全国に広がった。

衣料とともに燃料も不足し、中でも「ガソリンの一滴は血の一滴」といわれ、石油類は軍用が大部分であった。木炭自動車も走ったのもこの頃であったが、木炭の需給もひっ迫し、15年には全国8府県で木炭も切符による配給制が実施された。

15年中には、マッチ、砂糖も、16年の「生活必需物資統制令」により、石鹼、食塩、味噌、醤油、食用油なども配給制になった。戦局の悪化に伴い、「欲しがりません勝つまでは」のスローガンのもと、耐乏生活を余儀なくされた。

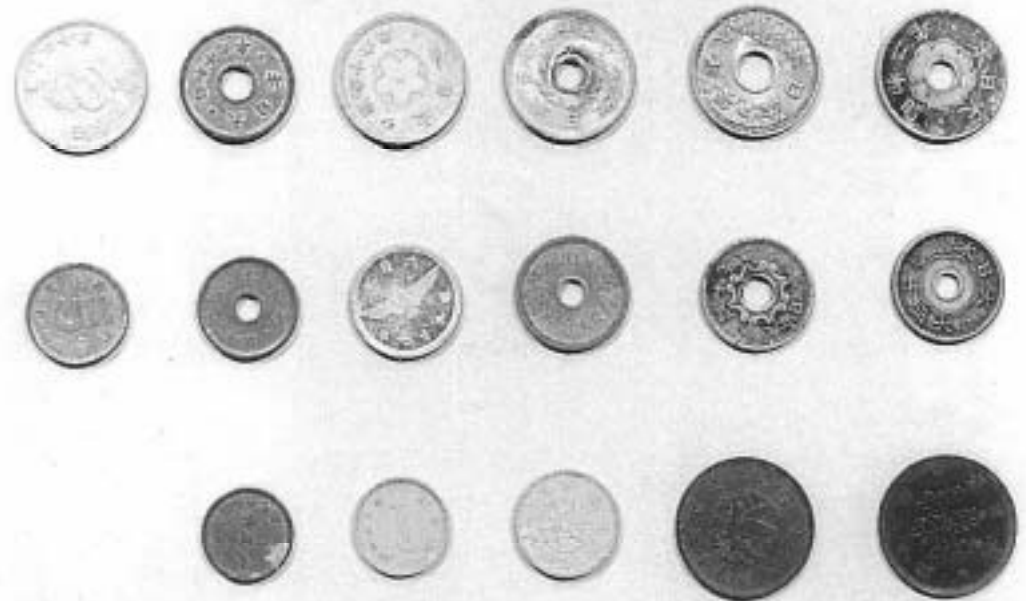
また、16年「金属類回収令」が制定され、金属回収運動が積極的に展開された。竹製スプーン、陶製なべ、木製バケツなどの代用品が出回り、寺院の仏具や梵鐘の供出が強制され、通貨の50銭銀貨、10銭・5銭のニッケル貨、1銭銅貨なども回収され、かわりに小額紙幣やアルミ・錫製の貨幣が発行されるなど、金属資源は底をついてしまった。



95 衣料切符



97 日本銀行券



98 硬貨

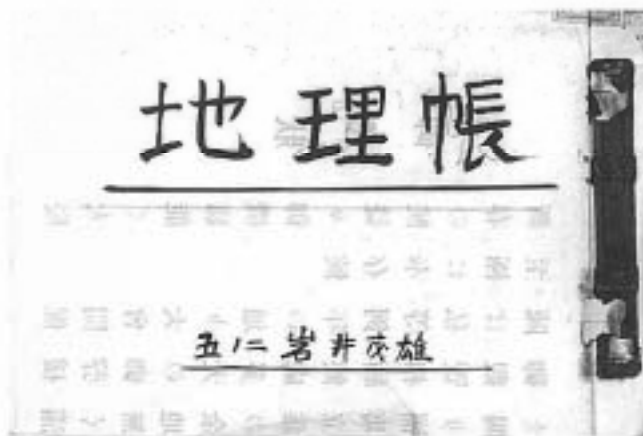
空襲と疎開

昭和17年（1942）4月18日、日本本土が初めて空襲をうけた。米空母から発進した爆撃機が、京浜地区等に来襲、県内も川口市や潮止村（現八潮市）に爆弾を投下した。19年7月サイパン島が占領されると、日本全土がB29の航続距離内に入り、同年11月、マリアナ基地から東京が初空襲をうけ、以降終戦を迎えるまで休みなく続けられた。

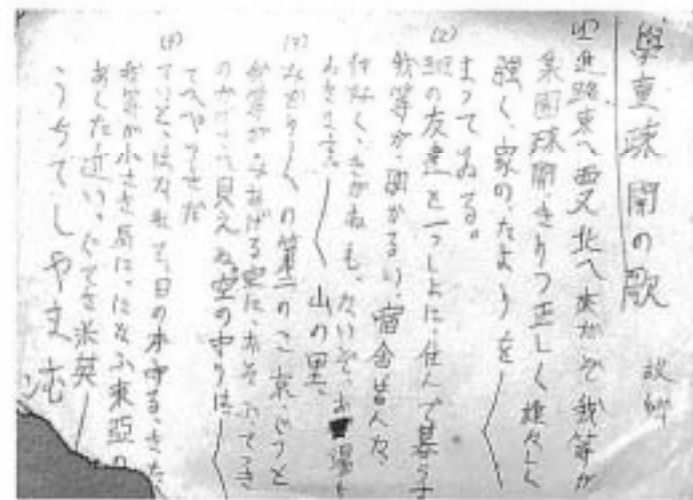
埼玉県下で最も被害が大きかった空襲は、20年8月14日午後11時30分頃から15日未明にかけての熊谷空襲であった。この空襲で熊谷市は、市街地面積の74%35万8千坪、全戸数の40%3,630戸が罹災し、罹災者は全人口の28%1万5,390人、死者は234人、負傷者は3,000人に及んだ。

空襲の激化にともない、18年12月に「都市疎開実施要綱」が閣議決定し、都市の軍事施設・工場・住宅を強制的に疎開させることになり、また19年6月には「学童疎開促進要綱」が閣議決定され、国民学校初等科3年生以上6年生までを対象に、縁故疎開や集団疎開により関東・東北の諸県に疎開させた。埼玉県には、19年8月19日から9月上旬にかけて、神田区（現千代田区）、日本橋区・京橋区（現中央区）の35校の学童1万423人（実際には8,408人ともいわれる）が、県下89市町村198か所に疎開した。受入先の大部分は寺院（168か所）で、その他旅館、教会、神社、集会所、道場などに教師と寮母の指導の下で学寮生活を送った。

久喜市域では、集団疎開を受け入れておらず、近隣の幸手市、杉戸町、白岡町、蓮田市、菖蒲町、加須市、栗橋町等で受け入れている。



99 手作りノート



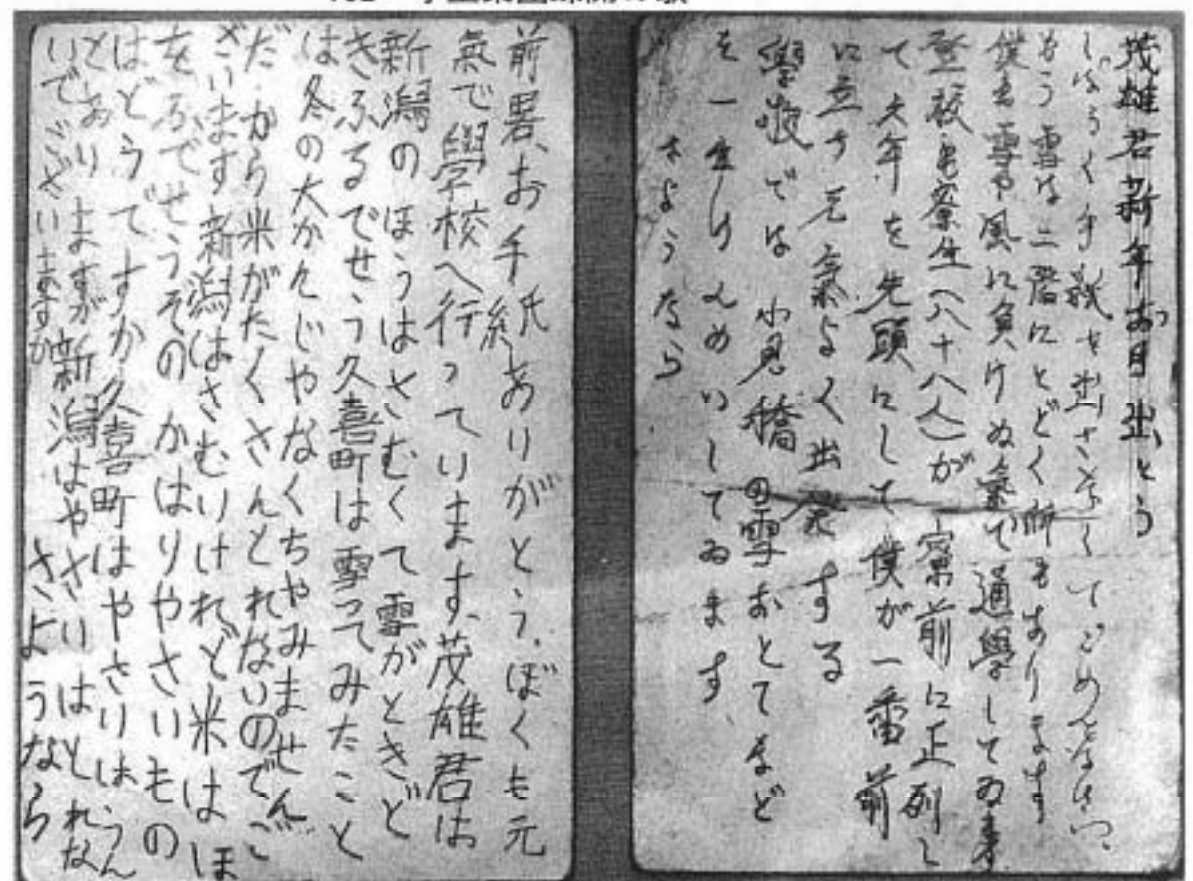
102 学童集団疎開の歌



100 図画



106 罹災証明書



101 疎開先との手紙

サイタ サイタ サクラガ サイタ

昭和16年3月1日、「国民学校令」が公布され、尋常高等小学校は国民学校と改称し、久喜国民学校、江面国民学校、太田国民学校、清久国民学校となった。修業年限は8年（初等科6年、高等科2年）で義務教育となり、教科は国民科、理・数科、芸能科、実業科(高等科のみ)の5教科であった。戦争の激化・悪化にともない、学校は神社参拝、宮城遙拝、神棚礼拝等が学校の慣行となった。

昭和8年度から低学年用に色刷りの国定教科書（第4期）が登場し、尋常小学校の「小学国語読本」は各学年2冊計12冊となり、巻一の巻頭部分が「サイタ サイタ サクラガ サイタ」と始まることから「サクラ読本」と呼ばれた。9年度には修身と国史、10年度には算術と地理、11年度には理科が色刷りとなった。この第4期国定教科書に共通する特色として、国家主義思想が反映され、軍事的色彩が強められたことがあげられる。

また、10年4月公布の「青年学校令」により、実業補習学校と青年訓練所を統合して青年学校が創設された。普通科男女とも2年制で12歳以上、本科は男子5年制、女子3年制で14歳以上から入学できた。14年4月から義務制となり、市内には久喜町、太田村、清久村に設置され、18年には久喜町外四ヶ村組合青年学校となり、22年まで存続した。

また市内には埼玉県立久喜高等女学校があり、戦争の激化にともない、13年には女学校内に特殊防護団が設置され、14年には愛国子女団、16年には報国団が結成された。さらに女子勤労奉仕隊が組織され、出征兵士の遺家族のところへ梨の袋かけ、麦刈り、田植え、稲刈り等の手伝いに出かけた。

13年に始まった学徒勤労働員は、18年に動員期間が1か月から4か月に延長され、19年2月の「決戦非常措置要綱」により、中学校生徒以上の学生・生徒の通年（1箇年）動員が決定し、同時に学校校舎の軍需工場等への転用や女子勤労挺身隊（18年9月組織化）への強制加入の途が開かれた。戦局の悪化により、動員は国民学校高等科まで拡大し、さらに原則10時間（残業を含め12時間）という長時間労働、中学3年程度以上の男女は深夜就業となり、学徒はまさに「制服の労務者」となった。

久喜高等女学校でも、19年には学校工場が設置され、2、3年生はその工場で雲母の研磨、4年生は大宮の東京第一陸軍造兵廠に動員され、風船爆弾を造っていた。

また、18年10月21日神宮外苑競技場において出陣学徒壮行会（学徒兵3万5千人）が開催され、以来多くの学徒・生徒が戦地に赴き、「わだつみのこえ」の悲劇に殉じた。



107 教科書（尋常高等小学校）



108 昭和国民礼法要綱（高等女学校の教科書）



109 報国団報



111 青年学校手帳



112 青年学校教科書



114 女学校生徒の勤勞奉仕（梨の袋かけ）



114 女学校生徒の勤勞奉仕（田植え）



114 女学校生徒の勤勞奉仕（稲刈り）

展 示 資 料 目 録

No	資 料 名	No	資 料 名
1	軍隊手牒	46	第一種剣術記章
2	召集令状 (赤紙、複製)	47	徴兵保険証書
3	従軍手帖	48	久喜町軍友会発会式の写真
4	くじ札	49	国庫債券、貯蓄債券、報国債券
5	抽選結果表	50	戦死公報
6	現役兵証書	51	村葬 (太田村) 通知
7	第一補充兵証書	52	病院葬通知
8	兵隊検査結果表 (昭和10年)	53	香典袋
9	徴兵書類 (新潟県上小国村発給文書)	54	大東亜戦争鹵獲兵器展招待券
10	入営決定ヲ祝ス (入営先の中隊からの文書)	55	記念乗車券、宝くじ
11	輜重兵第一聯隊埼玉県入営兵引率計画並びに名簿	56	支那事変一周年記念切手
12	入営者旅客運賃割引証	57	通信訓練必携
13	出征時の幡、幟	58	『海軍兵須知提要』
14	出征時の写真	59	『海軍実務必携』
15	戦地での写真 (慰問団一行)	60	婦人会の写真
16	奉公袋	61	女子青年団の写真
17	日の丸の寄せ書き	62	銃後奉公会成田山参拝記念写真
18	千人針	63	任官辞令 (伍長、軍曹)
19	軍服	64	戦地からの便り (軍事郵便)
20	雑囊	65	絵はがき
21	ゲートル	66	お守り
22	鉄帽	67	電灯のかさ
23	水筒	68	除隊兵ニ与フル訓示
24	履歴表	69	種痘予防接種実施証明書
25	第一海軍志願兵適任証書	70	戦傷病軍人家族身分証明書
26	海軍一般水兵採用通知	71	『陸軍刑法陸軍懲罰令』
27	特別幹部候補生志願者心得 (写し)	72	『軍人勅諭集』
28	人名簿	73	未召集兵教育修了証
29	防護団への献金願	74	引揚証明書
30	支那事変愛国国債購入願	75	抑留時の手作り麻雀牌
31	『大東亜戦争陸軍作戦記録画集』	76	ソビエート抑留通信
32	聖訓五箇修 (軍人勅語) 写真	77	靖国神社より招魂合祀の通知
33	太平洋戦争開戦の詔書写真	78	燈火管制用電球
34	東京出動将士後援会資金募集趣意書	79	防火用鳶口
35	義金募集趣意書	80	コンパクト (愛国婦人会埼玉支部)
36	一時恩給裁定通知書	81	『勅諭勅語集』
37	マッチ、タバコのラベル	82	柱時計
38	慰問の手紙	83	召集解除証明書
39	新聞 (2.26事件、太平洋戦争開戦、終戦、東京軍事裁判判決)	84	『聖戦従軍 我が家の誉』
40	『昭和9年陸軍特別大演習地方行幸埼玉県記録』	85	『異国の空 シベリア抑留の絵日記』
41	御親閲参加記念写真	86	定期乗車券
42	餞別出兵支出控	87	工員手帳
43	記章、肩章	88	国民労務手帳
44	勲章 (勲七等、八等)	89	満蒙開拓青少年義勇軍の写真
45	帝国在郷軍人会会員記章	90	一般用米穀類購入通帳

No	資料名	No	資料名
91	外食券	104	明治国民学校通知箋
92	菓子購入券	105	疎開時の写真
93	購入票交付申請書	106	罹災証明書
94	配給所の写真	107	教科書（尋常高等小学校）
95	衣料切符	108	昭和国民礼法要綱（女学校の教科書）
96	配給の手拭	109	『報国団報』
97	日本銀行券	110	学徒勤労働員の写真
98	硬貨	111	青年学校手帳
99	手作りノート	112	青年学校教科書
100	図画	113	防火訓練の写真（久喜高等女学校）
101	疎開先との手紙	114	勤労奉仕の写真（久喜高等女学校）
102	明治国民学校学童集団疎開の歌	115	昭和9年度江面尋常高等小学校卒業写真
103	学童疎開日課表	116	国民学校初等科五学年飛行機参考図

※ 展示期間中、一部展示替えを行います。

協力者（敬称略・順不同）

青木和子、中橋正隆、荒井精重、木伏きよ、武笠勝子、須賀三男、鎗田 晁、関 とよ、福西房吉、岩井茂雄、山崎重吉、五十嵐正次、武井利夫、稲村たけ、松本清作、加畑誠一郎、小豆沢邦松、早川正造、石川集子、松井俊雄、牧野ちさと、笠原 房、内藤次郎、佐怒賀正吉、小河原つね、高橋三郎、永島 清、関根 博、榎島治夫、長井崇夫、武井 勝、吉田一雄、沢井静夫、折原国松、平沢孝子、山本良知、樫浦義宗、伊藤仁吉、砂田茂述、三野 亮、埼玉県立久喜高等学校、宝聖寺、幸手市教育委員会

公文書館利用案内

- ☆開館時間／9：00～17：00
- ☆休館日／土曜日、日曜日、国民の休日、年末年始
（企画展の開催中は、日曜日も開館します）
- ☆交通案内／JR宇都宮線・東武伊勢崎線
久喜駅西口下車徒歩17分
（久喜市役所西側）